ひたちのくに
常陸国と
しもうさのくに
下総国の
むかしの家

茨城県建築士会
まちづくり委員会
推奨

［体感ルート・ガイドマップ］鬼怒川水系編

はじめに

このガイドマップの編集作業がちょうど山場を迎えた時期に、東日本大震災が発生しました。ここに掲載されている家々や地域のなかにも、甚大な被害を受けたところが少なからずあります。

被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申しあげるとともに、一日も早い復興をお祈り申しあげます。

茨城県建築士会「まちづくり委員会」では、平成19年から、茨城県に残る“むかしの家”を再評価し、その魅力を多くの方に知ってもらうための「“常陸国のむかしの家”体感ルート策定プロジェクト」を実施してきました。第3弾となる今回は、茨城県の西部に位置する筑西市下館地区(旧下館市)、結城市、古河市そして下妻市をめぐるルートを選定しました。

江戸時代から城下町、交通の要衝として商業的発展をとげたこれら県西の地域には、当時の見世蔵（店蔵）をはじめとする貴重な建築物が数多く残っています。

そういったむかしの家々を、先人たちの豊かな暮らしの知恵を継承しながら、手間と愛情をかけて守り続けてこられた当主の方々に、私たちは深く敬意を表します。

そして、震災からの復興に向け、この冊子がわずかでも励みとなることを信じて、写真・文章ともに、地震が起きる以前に構成した内容で製作・発行することといたしました。

各地域の皆さまおよび読者の皆さまのご理解をお願い申しあげます。

茨城県建築士会「まちづくり委員会」

筑西市 下館　結城　古河　下妻

常陸国と下総国のむかしの家［体感ルート・ガイドマップ］鬼怒川水系編

［目次］

1 全体マップ

筑西市 下館

4 板谷波山生家——郷里への尽きせぬ思慕と独自の感性を育んだ場所

8 荒為——明治、大正、昭和。時代時代の匠たちの技が競演する

10 時の蔵／荒七酒店／ナカヤコーポレーション

12 菓子處たちかわ／一木歯科医院／中澤時計店
花赤堂／谷島家／井狩家／塚田家／増渕家
荒為／中島家／郡家／道路を跨ぐ火の見櫓

結城

16 奥順・つむぎの館——紬を通じて、結城伝統文化の誇りを守り伝える

20 あくとの里——昔どおりの姿で、にぎわいの場に再生

22 真盛堂／武勇／秋葉糀味噌醸造見世蔵／鈴木新平商店

古河

27 鷹見泉石記念館——野趣のなかに気品漂う、蘭学者晩年の住まい

28 奥原晴湖熊谷画室繍水草堂／篆刻美術館 表蔵・裏蔵
永井路子旧宅／旧坂長本店／青木酒造

30 亀屋商事本館および煉瓦倉庫——瀟洒な望楼とイギリス積み煉瓦倉庫

32 日光東往還沿いの町並み／旧茂田家住宅

下妻

36 あかり家——受け継がれる家への想い

37 沼尻家（六芳園）——皇族も迎えた豪奢な客殿

38 かしわや薬局／坂入肥料店
外山書店／門井歯科／大宝八幡宮本殿

40 タイムテーブル

41 茨城県建築士会について

コラム［いばらきみみより豆知識］

5 近代日本の陶芸界が生んだ不世出の陶芸家・板谷波山（1872-1963年）

10 コンペには全国から76案の応募が。「蔵の谷間のトイレ」

14 下館といえば御神輿！羽黒神社と下館「祇園祭」
真岡線のSL列車に乗ろう！
波山ゆかりの「鳩杖最中」

コラム［いばらきみみより豆知識］

24 世界に認められた「結城紬」
結城名物「すだれ麩」と「ゆでまんじゅう」
江戸時代からの特産「桐箪笥」「桐下駄」

コラム［いばらきみみより豆知識］

33 「鮒の甘露煮」と「七福カレーめん」

34 利根川流域の出水に備えた、自ら守るための「水防建築」

表紙写真—筑西市下館・食の蔵 荒為
撮影—平井 夏樹（平井情報デザイン室）

黒漆喰の蔵とモダンな左官彫刻が共存するまち

筑西市 下館

文— 津田 むつみ（茨城県建築士会まちづくり委員会）
［p4-p14］

郷里への尽きせぬ思慕と
独自の感性を育んだ場所

板谷波山 生家

陶芸家として初めて文化勲章を受章した、近代日本陶芸界の巨匠、板谷波山。その足跡を伝える記念館として、波山の生家敷地内に開館したのが「板谷波山記念館」です。平成7年4月、生家、庭園、工房、展示館などを整備し、記念公園として一般公開されました。

生家は、木造瓦葺平屋建。6畳二間と3畳の一間に加え、1坪の玄関と3畳の台所があり、天井裏が一部物置となっています。旧座敷二間は江戸時代中期に建築されたもので、現存する座敷は、板谷波山生誕の部屋です。

記念館ではほかにも、都内の工房で実際に使われていた三方焚口の倒焔（とうえん）式丸窯（田端より移築）やロクロ台、各種の型類や道具が展示されているほか、制作の様子がうかがえるさまざまな資料、波山による掛軸や素描など、ここでしか見られない貴重な展示品も目にすることができ、まさに波山芸術の息づかいを今に伝える場となっています。

所在地：**筑西市甲866-1**

名称：**板谷波山生家（板谷波山記念館敷地内）**

開館時間：**10:00～18:00（入館は17:30まで）**

休館日：**毎週月曜日（休日の場合はその翌日）・年末年始**

問合せ：**板谷波山記念館**

TEL.0296-25-3830

入館料：**200円・団体150円（10名以上）、高校生以下無料**
＊しもだて美術館との共通券有り

建築用途：**住宅**

建てられた時期：**江戸時代中期**

構造・特徴：**木造平屋建**

コラム いばらきみみより 豆知識

近代日本の陶芸界が生んだ不世出の陶芸家・板谷波山（1872-1963年）

明治5年、下館町（現筑西市）に生まれ、明治27年に東京美術学校（現東京藝術大学）彫刻科を卒業した波山は、石川県工業学校（現石川県立工業高等学校）彫刻科教諭として赴任しますが、やがて退職、東京の田端に住居と工房を新築しました。その地からは自身がこよなく愛した故郷の「筑波山」が遠望できたことから、「波山」と号しました。

昭和20年、空襲で住宅と工房が焼失し、下館町に疎開していましたが、昭和25年には田端の工房を再建して制作活動を再開、昭和28年には、陶芸界の先覚者、功労者として、陶芸家では初となる文化勲章を受章しました。

田端に戻った後も、地元下館の小学校へ寄付金を送り続け、町の高齢者には鳩杖を贈呈、戦没者遺族には香炉や観音像を贈り、亡くなる直前にも、自らの資金を元に「板谷波山奨学金」を設立するなど、深く郷里を愛し続けました。

波山のその想いは、いまも下館に暮らす人々の心のなかにしっかりと受け継がれています。

東京田端より移築された三方焚口の倒焔式丸窯

板谷波山

旧下館市・国道50号線沿いとその周辺

国道50号線沿い（田町）とその周辺（金井町・末広町）は、下館における伝統的な町屋建築が集積するエリアです。明治期の関東地方の商家に特徴的な、重厚な雰囲気の建物が多数残る一方、町屋造りに洋風モルタル塗りの塔屋が隣接する建物があるなど、モダンな雰囲気も感じさせる町並みは、下館の町の商都としての歴史を物語っています。

泉家

明治43年建築の土蔵。2階が一体となっているのが特徴。

野尻家

明治末期の肥料商の土蔵。

塚田家

母屋は大谷石造。珍しい菱形の平面。→p13

増渕家

大谷石蔵。1階・2階共に窓があり、どちらも戸は大阪戸の珍しい造り。→p13

井狩家

大正初めに結城から移築した建物。→p13

ナカヤコーポレーション

明治38～39年に建築された19間×30間の非常に大きな土蔵。→p11

板谷波山生家

板谷波山記念館の敷地内に建つ江戸時代中期の建物。→p4

荒七酒店

国登録有形文化財の5棟の建物が建つ荒七酒店。→p11

時の蔵

筑西市所有の芦野石蔵。市民が展示会等に利用している。→p10

一木歯科医院

国登録有形文化財。木造鐵網コンクリート仕上げの数少ない遺存例として貴重な建物。→p12

堤歯科医院

不思議な階段を上った丘の上に建つ建物。西洋風の意匠のアーチ型窓枠がモダンな印象。

木村家

明治末期に建てられた肥料商の土蔵。

中島家

明治41年に建てられた見世蔵。→p13

郡家

表通りは典型的な袖蔵を持つ見世蔵。裏通りからは3階建の西洋館と表裏別の顔を持つ。→p13

荒為

国登録有形文化財。現在は会席料理店。→p8、p13

和乃館

江戸末期の土蔵造り。かつてのミセ部分は、なかい呉服店の特別催事やイベントに使用。

中澤時計店

全面洗い出し仕上げの個性的な外観の看板建築。時計台の時計は今も現役で時を刻む。→p12

菓子處たちかわ

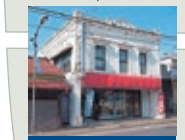
大正12年創業の菓子店。当初の木造3階建の2～3階を残し1階部分を鉄骨造に建て替えた。→p12

羽黒神社

祇園祭が有名。「お羽黒さん」と呼ばれ親しまれている地域の鎮守様。→p14

谷島家

明治末期の土蔵。縦一列型の典型平面。→p12



花赤堂

生クリームを塗ったケーキのような建物に真っ赤なテントが目を引く菓子店。昭和初期建築と思われる。→p12

中村美術サロン

明治初期の土蔵の見世蔵を美術館に改造し、一般公開している。奥の石蔵は企画展の会場に使われている。

火の見櫓

なんと！公道をまたいで立つ火の見櫓。→p13

板谷材木店

材木店の大谷石蔵は茨城県最大の木造石蔵。

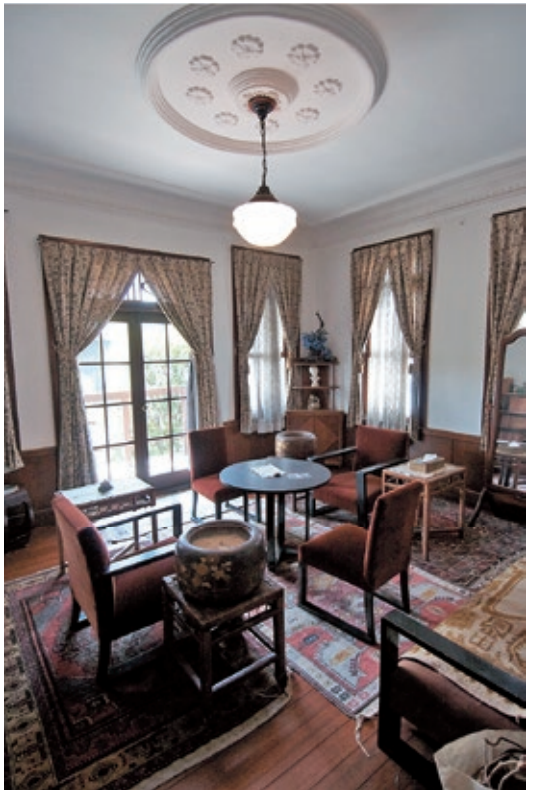
幕末の下館城下町絵図。通りは現在とほとんど変わらない。

銀杏坂（新坂）
松葉坂（旧坂）
田町
金井町
桜町
末広町
十軒町
大町
羽黒坂
アルテリオ
アルテリオ前
稲荷町
五行川
◀至結城市
至桜川市▶
50
305
306
7
下館駅（約400m）▶
0m
100m
200m

荒為（あらため）

明治、大正、昭和。時代時代の匠たちの技が競演する

1階座敷。正面に帳場の名残りの金庫や囲炉裏が見える



2階洋間。大正ロマンの香りが漂う

上：ベランダ／下：晴の間として使われた2階座敷

「荒為」は明治時代から肥料荒物問屋として繁盛した商家です。表の見世蔵と母屋は明治23年の築ですが、洋間は大正から昭和にかけてつくられました。商売の拠点は昭和50年に別の場所に移し、平成元年、建築当初の意匠を優先する形で、大掛かりな改修が行われました。明治の職人の手になる細やかな技を復元するため、まずは大工職人の選定に何年もかけ、結果的には宮大工に依頼したそうです。改修から20年経った今、まるですべてが昔から変わらないままそこにあるかのように、馴染んだ姿をみせています。

平成18年、この建物を永く保存し生かしていきたいというご当主の意向で、会席料理の店「食の蔵 荒為」がオープンしました。落ち着いた雰囲気のなか、各所に施された時代時代の職人たちによる丁寧な手技が、手間をかけた料理をいっそう引き立てます。

この建物は、平成15年に公開された映画「HAZAN」で、波山の生家や妻まるの実家のロケ地として使われました。また、平成23年には、国の登録有形文化財に登録されています。

左：奥のアプローチに荷物を運んだトロッコレールが残る

所在地：**筑西市甲929**

名称：**食の蔵 荒為**

営業時間：**昼11：30～14：30**
夜17：30～22：00

定休日：**毎週月曜日**

問合せ：
TEL.0296-21-1357

建築用途：**卸問屋・住宅**
（現在は会席料理店・住宅）

建てられた時期：**明治23年～昭和初期**

構造・特徴：**母屋―木造2階建／見世蔵―土蔵造2階建／脇蔵―木造3階建**

時の蔵

下館における市民活動のシンボル

昭和8年に市内から移築された芦野石蔵。約18坪の2階建の石蔵と約5坪の木造の下屋から成ります。
平成14年、老舗時計店の取り壊しの際に解体されるはずだった蔵ですが、市民の声で取り壊しを免れ、時計店の蔵であったことにちなんで「時の蔵」と名付けられました。現在は、照明、ピクチャーレール、エアコンなどが整備され、ギャラリーやイベント会場として、市民に活用されています。

コラム 知るとき みみより 豆知識

コンペには全国から76案の応募が。「蔵の谷間のトイレ」

時の蔵に隣接するトイレは、茨城県建築士会筑西支部が主催したコンペによりつくられました。全国から76案が寄せられ、中から選ばれた採用案が平成21年に竣工。アプローチ部分には応募者全員への感謝を込め75個の石を並べました。細長く天井の高い空間は、3方向から光が差し込みます。内壁の一部には隣地塀として残っていた古い大谷石をそのまま利用。入口の“男女”の文字は下館出身の書家・浅香鉄心の書から採りました。このトイレは、グッドデザイン賞他、数々の賞を受賞しました。

＊このトイレは、時の蔵のイベント開催時のみ使用可能です

荒七酒店（あらしち）

アールデコ調の洋館は下館のランドマーク目印

下館の中心街である田町の国道沿いに南面して建つ「荒七酒店」。かつては醤油の醸造業を営んでいました。木造3階建、モルタル塗りの洋館に和風の屋根（帝冠様式）を持つ、全国的にも珍しい外観意匠をもち、通りのランドマークになっています。
3階建洋館の東に隣接して建つ土蔵造2階建平入の店舗は、明治期商店街の様子を伝える貴重な建物です。敷地内には、洋館に続く木造建築、内蔵、石蔵も建っています。内蔵の奥座敷側の壁面は松と鶴の鏝絵仕上げとするなど丁寧な造りの蔵です。これら5棟の建物がすべて、国登録有形文化財となっています。

ナカヤコーポレーション

かつての“通り”の面影を色濃く残す

明治39年、砂糖問屋見世蔵として建てられた土蔵。その後製菓工場を経て、現在は不動産・タクシー・飲食業を営む会社の事務所として使用されています。
見世蔵は昭和17年の火災で住宅部分が燃えたため、内部は一般の町屋とは異なっています。かつては、写真左側の寄棟土蔵が下館銀行、さらに左の建物は製菓工場時代の変電所でした。

“アート”が競演するまち！

見世蔵の屋根を守る鬼瓦や、洋館の壁面に施されたモルタル細工など、下館のまちを見渡すと、見事な建築装飾をいくつも発見することができます。下館のまちは、いわば、“和洋建築装飾”の“屋外博物館”なのです。

手の込んだ鬼瓦の細工に
繊細なモルタル左官彫刻など
下館のまちはまさに
“アート”作品でいっぱいです！

下館･時の会 会長
一木努さん。一木歯科医院の院長であり、近代建築のかけら収集家としても著名

菓子處たちかわ

迫力満点の重厚な立ち姿

創業当時のままの姿で残る2階の欄間と擬宝珠（ギボウシ）。欄間には店名の「立川」と名字の「中西」がデザインされています。

中澤時計店

今も現役で時を刻む

微妙に高さやボーダーの幅が違う2つの塔の間に、現役の時計台があります。店名はローマ字は左から、漢字は右から、が時代を感じさせます。

花赤堂（かせきどう）

建物も飾り菓子のように

モルタル左官彫刻が全面に施された菓子店建物。屋号のサクラの花弁に“赤”の文字も左官彫刻です。

一木歯科医院（いちき）

シンプルながら気品漂う洋館

外観は、上げ下げ窓を割付けた単純な構成をとっていますが、プロポーションは的確で古典的な風格すら感じさせます。窓廻りや軒下装飾腕木のモルタル仕上げがシャープな印象を与えています。

谷島家 千鳥がはばたく

袖壁に左官装飾の千鳥が飛んでいます。もう片側では波間に亀が漂います。

井狩家

かつてを偲ばせる煙突

造り酒屋だった頃の煙突は、筑西市に残る最後の鉄筋コンクリートの煙突です。

荒為 植物の優美な曲線

植物がデザインされたモダンな左官装飾の袖壁。

郡家 巾着若葉絞り

3階建洋館の壁にある左官装飾は「巾着若葉絞り」という由緒正しい名前がある模様です。

塚田家 松竹梅の棟飾り

菱形の平面を持つ珍しい建物の屋根にある、銅板細工が見事な棟飾り。松竹梅が施されています。

増渕家 鶴に亀の鬼瓦

こちらの土瓦の鬼瓦は、上に鶴が羽ばたき、下に亀が首をもたげるおめでたいものです。

中島家

見事な蛇腹と繊細な細工

3段蛇腹を採用しているため重厚な屋根となっています。角の柱に巻かれた銅板には美しい模様の細工が見られます。

道路を跨ぐ火の見櫓

日本に唯一、下館にだけ！

他に類を見ない、公道を跨いで建つ火の見櫓です。人も車も通り抜けます。

コラム いばらきあれこれ 豆知識

下館といえば御神輿！ 羽黒神社と下館「祇園祭」

羽黒神社は、町の中心にある市民憩いの神社です。文明13年（1481年）に、下館城主の水谷家初代勝氏が、領内安堵のため日ごろ尊崇する出羽国（山形県）羽黒大神を勧請したものです。本殿は県指定文化財になっています。初詣のほか、「だるま市」や「節分祭」、「祇園祭」などの折にたくさんの人で賑わいます。

とくに、「祇園祭」の通称で知られる「下館羽黒神社夏季祭典」は、毎年20万人が集まる県内屈指の夏祭りです。毎年7月最終木曜日から日曜日にかけての4日間にわたって行われ、2基の大神輿と姫神輿（女神輿）、その他各町内の子供神輿およそ30基が市街地を練り歩き、壮観です。

この祇園祭で使用される2基の大神輿と山車は、「しもだて地域交流センターアルテリオ」の1階に展示されており、間近に見ることができます。アルテリオは、ガラス張りのファサードが印象的な現代建築で、「地域交流センター」のほか「しもだて美術館」が入る文化施設です。しもだて美術館では、常設展として、板谷波山を初め下館ゆかりの作品を展示しています。

20万人が集まる夏祭り「祇園祭」の様子

しもだて地域交流センターアルテリオ

真岡（もおか）線のSL列車に乗ろう！

真岡線のSL列車は、下館駅発10:37、終点茂木駅着12:02です（茂木駅発は14:28、下館駅着15:57）。1区間の乗車もできますが、各駅停車ではありませんので注意してください。乗車券の他に整理券500円（小学生は250円）が必要となります。

勢いよく煙を吐いて走る真岡線のSL列車

波山ゆかりの「鳩杖最中（はとづえもなか）」

「鳩杖最中」は、下館の十数軒の和菓子店で販売しています。波山が晩年、下館の高齢者に「鳩杖」を贈りつづけたことにちなみ、地元の菓子組合が波山の陶芸家としての姿勢を念頭に共同で開発・製作したものです。皮とパッケージは共通で、餡はそれぞれの店舗で異なります。

下館名物「鳩杖最中」

結城

世界に誇る紬と、三十三の見世蔵のまち

文— 小谷野 栄次（茨城県建築士会まちづくり委員会）
［p16-p24］

奥順・つむぎの館

壱の蔵

紬を通じて、結城伝統文化の誇りを守り伝える

「つむぎの館」は、創業明治40年の本場結城紬製造卸問屋「奥順」が、百年にわたる歴史のなかで培ってきた紬への想いを集約し、自社敷地内につくり上げた結城紬の総合施設です。

施設内にはいくつもの建物があります。現在は事務所として使用されている「弐の蔵」（国の登録有形文化財）は、明治19年建築の見世蔵。紬問屋の店舗として建てられ、切妻、平入り、2階建、桟瓦葺で、間口3間半、奥行2間半の形式。下屋庇が設けられています。

「壱の蔵」（国の登録有形文化財）は大正以前の建設で、切妻、平入り、2階建、桟瓦葺です。間口4間、奥行3間半の形式で下屋庇と奥に座敷を設けてあります。現在は、見世蔵を改装したギャラリー&カフェとして活用されています。

平成18年、創業100年目の年には、前述の2棟に隣接して新たに4つの建物が完成しました。築150年の古民家を移築改装した「陳列館」、染織体験ができる「染織体験工房織場館（おりばかん）」、結城紬の歴史を伝える資料館の「手織里（ておりさと）」、そして地機織りの実演と紬の小物の販売を行う「結の見世（ゆいのみせ）」――壱の蔵、弐の蔵を合わせたこれら6棟からなる「つむぎの館」は、二千年の歴史を持つ結城紬の魅力を多角的にいまに伝える、まさしく“結城紬の博物館”です。

敷地内には、他にも奥順社屋として使われている歴史ある建物があり、国の登録有形文化財は全5棟となっています。

陳列館

陳列館内部

離れ（左）と土蔵（右）

弐の蔵

手織里

所在地：**結城市大字結城12-2**
名称：**つむぎの館**
開館時間：**9：30～17：00（入館は16：30まで）**
休館日：**火曜日（ギャラリー&カフェ壱の蔵は不定休）**
入館料：**無料（ただし、資料館と染織体験は有料）**
問合せ：
TEL.0296-33-5633
http://www.yukitumugi.co.jp

建築用途：**店舗兼社屋**
建てられた時期：**明治19年 ほか**
構造・特徴：**壱の蔵・弐の蔵―木造2階建、切妻、平入りの見世蔵。日本瓦葺、白漆喰壁、格子戸が特徴。**
陳列館―近隣から移築した古民家。この地域の代表的な農家住宅を改修。茅葺であった屋根を銅板で葺き直している。
離れ・土蔵―結城で見られる一般的な形態の建物。

結城駅北口・市役所周辺

結城は、鎌倉時代からの歴史を持つ古いまちです。とくに江戸時代には、町人たちが地場産業を興して高い経済力を持ち、豊かな文化を育みました。当時つくられた見世蔵が今もまちなかに数多く残ります。また、長い歴史のなかで建てられた多数の寺社が、まちを見守るように存在するのも結城の特徴です。直交を避け見通しを悪くした通りが、城下町のなごりを伝えます。

結城百選
結城市が市民とともに定めた観光名所。この石柱が目印。

蕪村の句碑

江戸時代の俳人で画家でもある与謝野蕪村は、寛保2年（1742年）から結城に10年間滞在し、結城を読んだ句と襖絵を多く残している。蕪村ゆかりの浄土宗の学問所でもあった弘経寺などに句碑が建てられている。

弘経寺

［ぐぎょうじ］文禄4年（1595年）、結城18代秀康の長女、松姫の菩提を弔うために創建された。現在まで一度も焼失していない貴重な寺院。

光福寺

［こうふくじ］創建年は不明だが、文明3年（1471年）以降の古文書を有している。

金福寺

［こんぶくじ］宝永5年（1708年）の結城町の記録によれば、この金福寺の鐘が時を告げていたとある。

毘沙門堂

［びしゃもんどう］毘沙門天様をまつるこの毘沙門堂をはじめ、結城市内で七福神めぐりができる。結城市ではスタンプラリーも用意している。詳しくは駅前観光物産センターで。

孝顕寺

［こうけんじ］永正12年（1515年）に別の地に創建されたが、慶長4年（1599年）、現在の地に結城18代秀康により再建された。

武勇

江戸末期に創業した酒蔵。丁寧につくられる結城の地酒として多くのファンを持つ。白漆喰の蔵と煉瓦造りの煙突が印象的。→p22

秋葉糀味噌醸造見世蔵

天保3年（1832年）創業。見世蔵は大正13年に建てられたもの。3年熟成させてつくる「つむぎみそ」と、その味噌を使った商品が人気。→p23

常光寺

［じょうこうじ］永仁2年（1297年）に創建され、慶長3年（1598年）に現在地に移築された。門前の阿弥陀如来像は「金仏さん」の愛称で市民に親しまれている。

真盛堂

見世蔵づくりの和菓子店。結城名物「ゆでまんじゅう」ほかを店内で食べられる。→p22

喜久家本店

大正時代から続く日本料理店。うなぎが名物。

御朱印堀跡

住吉神社

結城7代直朝が定めた結城七社のひとつ。

健田須賀神社

こちらも結城の七社のひとつ。

釈迦堂

結城16代政勝公の念持仏がある。

鈴木新平商店

明治19年に建てられた見世蔵と袖蔵。現在は住宅としての利用が主であるが、貸しスペースとして利用されることも。→p23

雷稲荷神社

落雷から守ってくれる神社。

結城市役所西庁舎

結城市役所

結城市役所附属庁舎

結城市役所大町分庁舎

公民館

明治40年創業の本場結城紬製造卸問屋。広大な敷地内に、5つの登録有形文化財と、結城紬をさまざまな角度から体験できる4つの資料館を有する、文字通り結城紬の総合博物館的施設。→p16

奥順・つむぎの館

あくとの里

明治45年に建てられた見世蔵を利用した農産物直売所。お惣菜など加工品も販売。食事処もある。→p20

えびす神社

恵比寿様をまつる神社。結城七福神のひとつ。

レンタサイクル

結城駅北口1階で、レンタサイクルが借りられます。1日500円で、7時から20時まで利用できますよ！

0m　100m　200m

結城小

至宇都宮市

至小山市

木町　大町　浦町

駅前蔵通り　紺屋町通り　西之宮住吉通り　大町通り　健田通り

35　264　302　204

結城駅北口（約400m）▼

あくとの里

昔どおりの姿で、にぎわいの場に再生

明治45年に建てられた旧黒川米穀店の見世蔵です。戦後は廃業し、以降平成3年までは、貸店舗や事務所として利用されてきました。その間、一部に増築や改装が行われましたが、平成14年に、蔵づくり街並み保存整備事業として移築改修することが決まり、開口部に施された金属建具や1階内部の増築部分を撤去し、床、壁、天井などをすべて建設当時の状態に戻して、軸組みからの根本的な改修が行われています。

現在は、結城農産物直売所「あくとの里」として農事組合法人宮崎協業が活用し、地元結城の農産物や名産品などが販売され、地域の住民や観光客でにぎわいを見せています。

この建物は、国登録有形文化財となっています。

所在地：**結城市大字結城1319**
建築用途：**店舗（観光物産店）**
建てられた時期：**明治45年**
構造・特徴：**木造2階建、切妻、平入り。西および南側に下屋庇**
問合せ：**TEL.0296-34-0675**

「きものday結城」での特設売り場風景

真盛堂（しんせい）

二つの窓の愛らしい表情

もともとは福井薬局の見世蔵として明治30年ごろに建てられました。2階建、切妻平入形式で、出桁が特徴となっています。
出桁や軒、壁以外の観音開き扉も白い漆喰で塗り固められ、火災時の防火に備えています。また、二重、三重の扉のヒダは防火の目的だけでなく、見た目にも美しい意匠として機能し、外見上の特徴を形成しています。
現在は、結城銘菓や和菓子を取り扱う「真盛堂」が喫茶店として補修改装を行い活用しています。夏祭りの時期にお供えして無病息災を願う、江戸末期から続く結城名物のひとつ「ゆでまんじゅう」が有名です。

結城名物「ゆでまんじゅう」

武勇　江戸末期からの貫録の立ち姿

結城の地酒として有名な日本酒「武勇」を製造販売する武勇。建物は江戸末期に保坂酒造の店舗および醸造蔵として建てられました。2階建、寄棟妻入の形式で、「鉢巻」（桁と垂木を壁で隠し漆喰で塗り込める方法）が特徴です。赤煉瓦造りの煙突は今も使われているもので、醸造蔵の白壁と美しく印象的なコントラストを生み出しています。
保存のため、平成に入ってから大改修を行っています。見学は店先まで可能です。

武勇自慢の純米酒、吟醸・大吟醸

秋葉糀味噌醸造見世蔵（あきばこうじ）

道路拡幅工事でちょっぴり個性的に

大正13年に建てられて以来、現在まで味噌屋店舗兼住居および醸造蔵として利用されています。道路拡幅工事のため、軒を短くするなど若干の増改築を行っていますが、2階建、寄棟妻入の形式で国登録有形文化財となっています。土壁に白漆喰の塗り柱が映えるこの見世蔵の裏に、醸造蔵が一体となって続きます。
店では無添加の「つむぎみそ」のほか、その味噌をつかった加工品の「繁盛なす」などが購入できます。事前に連絡を入れれば、大きな味噌醸造樽が置かれた蔵の内部を見学することもできます。

無添加でつくる「つむぎみそ」

鈴木新平商店

結城を代表する見世蔵と袖蔵

明治19年、鈴木商店の見世蔵、袖蔵として建築されました。その後、紡績商を経て、現在はおもに住宅として利用されています。2階建、切妻平入形式、出桁が特徴の、結城見世蔵の代表的な建物です。写真向かって右側が店舗を蔵造とした見世蔵（店蔵）、左側が倉庫を蔵造とした袖蔵、一体感が美しい建物です。

イベントスペースになることも

コラム いばらきみみより 豆知識

ユネスコの世界遺産にも認定された「結城紬」

世界に認められた「結城紬」

平安時代に朝廷に上納されたという、二千年の歴史を持つ日本最古の絹織物が「結城紬」です。真綿から撚りをかけずに手でつむぐのが特徴で、それにより「軽くて暖かくて、柔らかい」という独特の風合いが生まれます。製品となるまでには、専門的な技術を要する20以上の工程を経て織り上げられ、そのなかの3つの工程「糸つむぎ」「絣くくり」「地機織り」は、昭和31年に国の重要無形文化財の指定を受けています。平成22年には、ユネスコ（国連教育科学文化機関）の無形文化遺産にも登録され、結城紬は、まさに結城発の世界に誇れる技術、文化として、あらためて注目を集めています。

結城名物「すだれ麩」と「ゆでまんじゅう」

小麦粉から取り出したグルテンを主原料として、天日で乾燥させて作るのが「すだれ麩」です。ほとんどすべての工程が手作りのため、完成までに1週間を要する手の込んだ食べ物です。金沢の加賀料理にもすだれ麩は使われますが、塩を加えて天日で干す結城の製法は、この地独自のものです。食べ方としては、ごま酢あえがもっとも知られ、かつては、冠婚葬祭時に食されていました。

「ゆでまんじゅう」も結城の名物。昔、殿様が流行り病の病払いのために民衆にふるまったのが始まりといわれます。モチモチッとした食感が特徴で、市内の各和菓子店でそれぞれの味を味わうことができます。

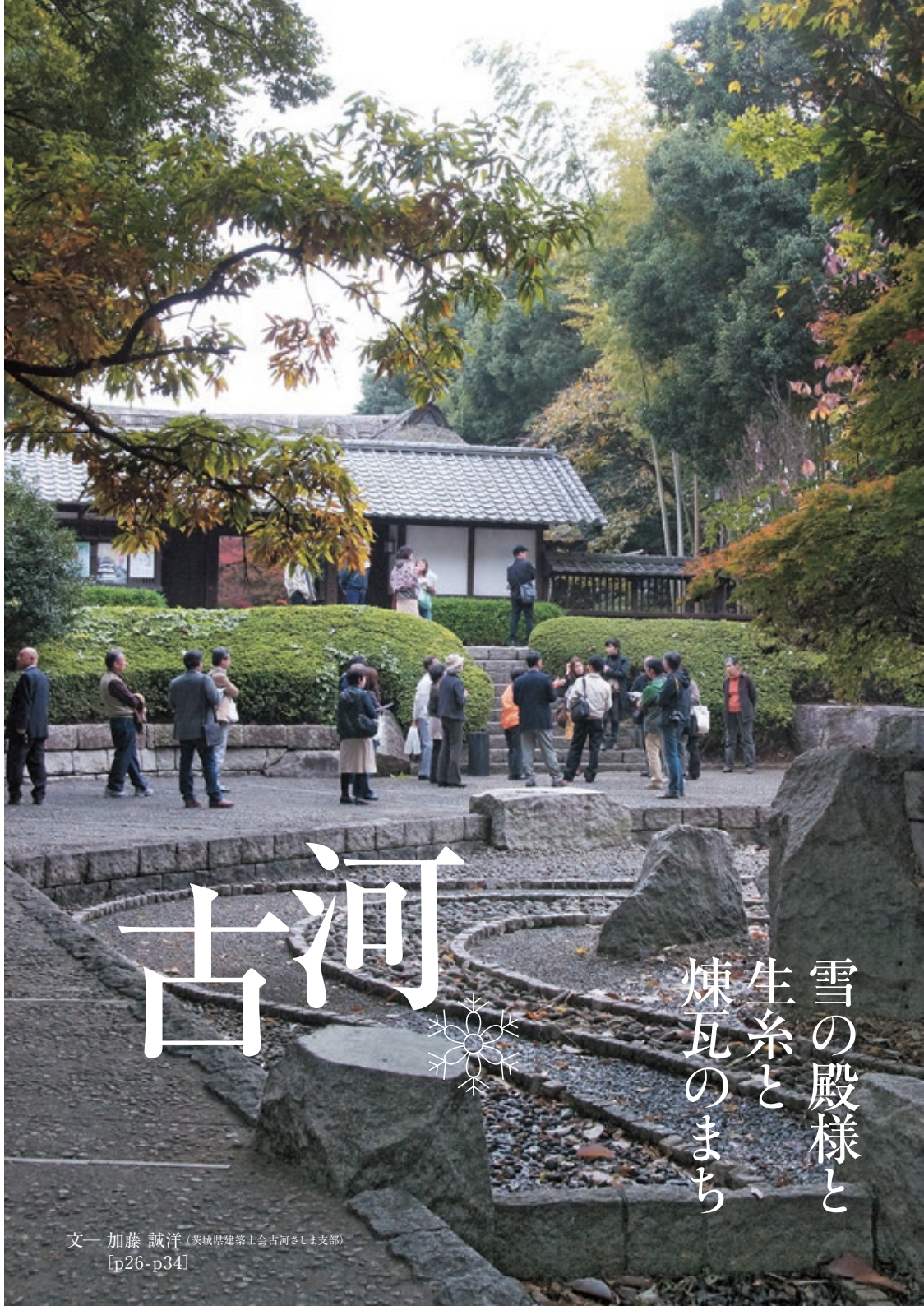
すだれ麩のごま酢あえ

ゆでまんじゅう

江戸時代からの特産「桐箪笥」「桐下駄」

もともとはこの地の領主・結城家への御殿調度品として、けやきを使った箪笥が作られていましたが、領内に桐を植栽していたことから、次第に桐箪笥へと移行していき、江戸時代後期には桐箪笥がこの地の特産品として広く作られるようになりました。燃えにくく、通気性に富む性質は衣類の収納に最適で、現在も全国に出荷されています。また、箪笥以外の桐工芸品や桐下駄も、木目の美しさや肌触りの良さなどから人気があります。

桐箪笥（左）と桐下駄。通気性の良さが特徴



古河

雪の殿様と生糸と煉瓦のまち

文— 加藤 誠洋（茨城県建築士会古河さしま支部）

[p26-p34]

古河駅西口・古河城跡周辺

江戸期には城下町、また日光街道の宿場町であった古河は、下総国の豊かな田園地帯として、常陸国とは違う文化風土を育み、多数の文人を輩出してもいます。古河城本丸は明治期、河川の整備で消えてしまいました。しかし、城下町としての名残は今でも建物や町割に見ることができます。

古河藩主であった土井利位(としつら)は日本初の雪の結晶に関する観察図鑑『雪華図説(せっかずせつ)』を出版したことで知られています。

鷹見泉石記念館

(たかみせんせき)

野趣のなかに気品漂う、蘭学者晩年の住まい

鷹見泉石記念館は古河歴史博物館の東南に位置し、同分館として平成2年(1990年)に改修整備後開館しました。博物館は、江戸時代、土井利勝の入封により規模を拡大した古河城下東側の、先に日光道中を仰ぎ見る場所に位置します。この一帯は諏訪郭と呼ばれ、重臣たちの居住地として整備されていました。

本建物は、寛永10年(1633年)ごろ、古河城御三階櫓を建築したときの残り材で建築されたと伝わります。構造は木造平屋建で茅葺(一部銅板葺)とし、正面中央に格式の高さを伺わせる玄関をもつなど、野趣溢れる武家住宅の形式を有しています(かつては現在の倍以上の建築面積であったことが判明しています)。

鷹見泉石(1785-1858年)は、蘭学者であり古河藩の家老として活躍した人物です。この記念館は、泉石が隠居後に居住し蘭学にいそしんだ建物であり、市内に存在する数少ない古河藩の遺構としても貴重です。

所在地:**古河市中央町3-11-2**
建築用途:**住宅**
建てられた時期:**寛永10年頃**
構造・特徴:**木造平屋建寄棟造り茅葺(玄関部銅板葺)武家住宅**
問合せ:**TEL.0280-22-5211**
(古河歴史博物館)

奥原晴湖熊谷画室
繍水草堂

女流画家ならではの風雅が薫る

奥原晴湖（1837-1913年）は、江戸から明治にかけて活躍した古河生まれの女流南画家です。
本建物は、晴湖が晩年東京から移住した熊谷で画室兼住居として建築したもので、逝去後、市内に一部移築されていたものを復元し、鷹見泉石記念館の西隣に「繍水草堂」として開館しました。
構造は、木造平屋建で寄棟屋根に桟瓦葺きとし、床の間のある座敷を含む2室にかつての部材が残る、文人趣味の一端がうかがい知れる貴重な建物です。

篆刻美術館表蔵・裏蔵
（旧平野家表蔵・裏蔵）

石蔵の意匠を生かして美術館に改修

篆刻美術館は、旧古河町で町長を務めるかたわら酒卸業を営んでいた平野家所有の建物を、平成3年（1991年）に、わが国唯一の篆刻を専門にあつかう美術館に改修して開館しました。
「表蔵」と呼ばれる通りに面した3階建の石蔵は、平野家が座敷蔵として利用していた建物で、内部にはかつての意匠が残ります。
奥には、倉庫として利用していた「裏蔵」と呼ばれる石蔵が建ち、表蔵とあわせて美術館の展示室として利用されています。ともに大正9年の建築で、国の登録有形文化財です。

こちらは「裏蔵」。現在は展示室として利用

永井路子旧宅

作家の記憶にとどまる薄緑の壁

この建物は、直木賞作家永井路子が幼少期から成人するまで過ごしていた商家で、現在は「永井路子旧宅」として一般に公開しています。
通り沿いの見世蔵外壁の薄緑色が目立ちます。これは4代目の発案らしく、かつて茶のほか陶漆器などを扱っていた当時が偲ばれます。

旧坂長本店

旧古河城の蔵を移築した貴重な遺構

敷地内には、旧古河城文庫蔵と乾蔵を移築し見世蔵と袖蔵にした建物のほか4棟の国登録有形文化財が建ち、肴町と呼ばれる界隈に昔の面影を残します。
旧古河城の遺構を含むこれらの建築群は、市が整備し一般公開される予定で、現在工事が進んでいます。

石畳の小道や煉瓦の塀に、
雪の結晶のモチーフが刻まれて
とても風情があるんだワン！

石畳の歩道には、「雪の殿様」土井利位にちなんだ雪の結晶のモチーフが

青木酒造

見世蔵と煉瓦塀の組み合わせ

八幡通りに面して見世蔵と土蔵が建ちます。また、敷地との境界には隣町にあった下野煉瓦工場（シモレン）で製造された煉瓦を用いた塀や付属屋を設けています。青木酒造は江戸末期から現在まで、同地で造り酒屋を営み、敷地内には他に仕込み蔵が建ち、市内の近代化を知る上でも貴重です。

亀屋商事本館および煉瓦倉庫

（旧飯島家住宅本館および飯島製糸煉瓦倉庫）

瀟洒な望楼（ウォッチタワー）とイギリス積み煉瓦倉庫

古河駅東口エリア

飯島家は昭和初期、古河で隆盛を極めた製糸業の中核を成す企業として、県内はもとより全国的にその名を知られていました。

本館は、望楼がつく木造3階建の洋風建築で、飯島家の事務所棟として昭和10年に建築されました。

外部は、横羽目板張りペンキ仕上げの外壁とし、パラペット状の軒を2階まで延びるタイル貼りの柱が支えた様相です。最上部には古河の近代化を象徴する瀟洒な望楼が付き、現在も市民に愛されるランドマークとして機能しています。

内部は、1階が応接間・事務所・座敷などの部屋に分かれ、北側の土蔵や旧食堂・旧浴室と渡り廊下で結ばれています。2階は、書院造の形式を持つ座敷を含む和室となっており、3階の望楼部は北側を除く3面をガラス張りとしています。

道を隔てた反対側には、イギリス積み煉瓦倉庫が建ち、本館とともに国の登録有形文化財になっています。

本建築は、近年道路拡幅などにより界隈の町並みを形成していた建造物が続々と姿を消していく中、かつての古河における近代産業の隆盛を知る上でも貴重です。

所在地：**古河市雷電町1-78**

名称：**亀屋商事本館および煉瓦倉庫**
（旧飯島家住宅本館および飯島製糸煉瓦倉庫）
＊内部非公開

問合せ：
亀屋商事株式会社
TEL.0280-32-0910

建築用途：**事務所及び倉庫**
建てられた時期：**事務所棟―昭和10年／煉瓦棟―明治後期**
構造・特徴：**事務所棟―望楼付木造3階建／煉瓦倉庫―煉瓦造平屋（当初は2階）**

日光東往還沿いの町並み

脇街道のにぎわいを今に伝える

日光東往還は日光道の東に位置する街道です。本街道は、日光社参の混雑を解消する目的で設置された脇街道で、正式名を「関宿通多功道（せきやどどおりたこうどう）」といいます。
古河市では、旧三和町内を南北に縦断し、宿駅として南から谷貝・仁連・諸川が設置されていました。
諸川宿には、今もかつての面影の残る商家などが建ち並び街道沿いの景観を成しており、脇街道の歴史を知る上でも大変貴重な町並みといえます。

旧茂田家住宅

18世紀後半に建てられた茅葺民家

この建物は、旧総和町内に建っていた民家で、現在は市内にある公園（ネーブルパーク）内に一部新材を用いて解体移築し、市指定文化財として一般公開をしています。
建築形式はこの地方に見られる直屋（すごや）型民家です。平面形式は整形四間取りと呼ばれる、いわゆる田の字型で、土間部分に馬屋を内包します。現在数少なくなった茅葺の民家を知る上で貴重な遺構です。

コラム いばらきみやげより 豆知識

「鮒の甘露煮」と「七福カレーめん」

海から離れ川が流れる地域では、魚といえば鮒や鯉などの川魚のことを指します。古河も例に漏れず海から遠い地域特有の食文化が息づき、かつては祝い事といえば鯛・鰤・鮭ではなく鯉や鮒を用いた料理が振舞われたといわれます。
そういえば宮中では鯉のことを高位（こうい）、将軍家は鯛のことを大位（たいい）とそれぞれ呼んでいたとか。
さて、古河の名物といえばまず「鮒の甘露煮」が挙げられます。市内には何軒もの甘露煮店があり、それぞれの味を楽しむのも一興です。
また、最近はなんといっても「七福カレーめん」。市内の20店以上の飲食店が賛同し、カレーを使った麺料理で腕を競いあい、新たな町おこしとして期待されています。

古くからの古河名物「鮒の甘露煮」

市内の20店舗がそれぞれの味を競う「七福カレーめん」

コラム いばらきなるより 豆知識

利根川流域の出水に備えた、自ら守るための「水防建築」

水防建築とは、河川の中下流域の洪水常襲地帯の農村に見られる、「屋敷の全体、あるいは一部に土盛りをして出水時に避難のために使用する建物及び建築形式」のことです。

近世から行われた新田開発によって、より低地に移住した農民たちが自らの手で家財道具や家族を守るために編み出した「知恵」といえます。

存在は全国各地に知られており、代表的な例として新潟県糸魚川沿いの「水倉（ミズクラ）」や岐阜県木曽三川の輪中地域にある「水屋（ミズヤ）」、利根川中下流域の「水塚（ミツカ）」があります。

従来、水防建築としては、「水屋」が知られた存在でした。

しかし、一部の富裕層のみが所有していたり、床の間の付く座敷を持っていたりと、全国的に見ると「水屋」は特殊な存在です。

全国的に普及している水防建築の大多数は、「簡単な納屋のような」建築で、「普段は、家財道具や穀物貯蔵に使用され」ていて、「水塚」もその例に入ります。

すなわち、利根川中流域に存在する古河市の「水塚」は、各地の水防建築の成立要件や環境の背景が似ているといえ、普及度からみて代表的な水防建築の形式を有していることになります。

水防建築は、戦後、堤防技術の進歩、インフラ整備により、河川の氾濫頻度の減少や、災害時における避難システムの変化などで、数が減っています。現代では水防建築は「過去のもの」となりました。

このような「先人の知恵」は、私たちに「まず、自分や周りを自分たちの力でどう守るか」ということを思い起こさせ、誰かに守ってもらおうとしすぎる現代生活に未来のヒントを与えてくれます。

高い場所に建つ納屋。道具類も軒近くの高い位置に収納

敷地内の他の建物より土台が高くなっている

鬼怒川、小貝川の水運に育まれたまち 下妻

下妻は、江戸から明治の中ごろまで、水運の中継地として繁栄しました。今も街道沿いに当時のにぎわいを伝える建物や蔵が残ります。

あかり家

受け継がれる家への想い

所在地：**下妻市下妻丁260**
建築用途：**住宅（現在は店舗）**
建てられた時期：**昭和4年**
構造・特徴：**木造2階建**
問合せ：**TEL.0296-44-2008**

築80年となるオーナーの実家を改装した店です。改装されるまでは、長い期間放置され、荒れた状態だったそう。「でも、ここで暮らした先祖の想いを考えるとどうしても壊せなくて」とオーナー。この家を生かしてできることは何か考え、夫妻が趣味とする“陶芸と料理”を提供するギャラリーカフェが誕生しました。

吹き抜けを設け、床を板張りにした以外、内部は以前のつくりのまま。職人が丁寧に修復した建具は、ひとつひとつが個性的な表情を見せ、まるで家全体がギャラリーのよう。「古いものを大切にしたい」という夫妻のシンプルな想いが、家のあちらこちらで形となり、訪れた人の心を温かく灯します。

沼尻家（六芳園）

皇族も迎えた豪奢な客殿

現当主の祖父によって昭和2年に建てられた、木造2階建、瓦葺き、延床面積117坪の壮麗な個人住宅です。

早稲田大学に建築学科を創設し大隈記念講堂を設計したことで知られる建築家の佐藤功一氏が監修をし、宮大工が2年の歳月をかけてつくり上げました。

昭和9年の大演習の際には、秩父宮殿下が宿泊され、記念に建てられた碑は現在も敷地内に残っています。

濡れ縁の土間は、さざ波を模（かたど）った玉石の洗い出しとなっており、また、広縁の軒を支える柱は、一見竹製ですが中はじつはコンクリート製と、粋な遊びが随所に見られます。中庭にも贅が尽くされ、近隣の大工衆のお手本になっていた建築です。

＊個人宅です。見学する際は、必ず沼尻家の許可を取って見学してください。内部の見学は不可。

所在地：**下妻市下妻丁**
建築用途：**住宅、客殿**
建てられた時期：**昭和2年**
構造・特徴：**木造2階建、数寄屋造り**

かしわや薬局

大戦の記憶がいまだとどまる蔵

母屋は、棟札に記された火除けの願いから、桜田門外の変の翌年、文久元年（1861年）の築であることがわかります。
蔵は三棟あり、中央の蔵は「お助け蔵」と呼ばれ、天明の大飢饉（1782年）の後に、穀物を労働賃金として提供した礼として建てられました。南側の通称「ビール蔵」は、明治時代にサッポロビール特約店となって以来ビールを貯蔵していたもので、外壁には第二次世界大戦の遺物である迷彩模様（蔵は標的になるとの理由で塗装を強制された）が、70年近い歳月を経てなお面影をとどめています。北側の一棟は昭和60年、母屋につなげてレトロモダンな赴きの応接間として改造し、雑誌「新建築」で紹介されました。

＊蔵のみ見学可。見学する際は、必ず店主の許可を取って見学してください。

坂入肥料店

4年以上の歳月をかけて完成

明治30年に建てられた木造2階建。それ以前に建っていた家が火災で全焼して、現在の家が建てられました。
真壁の親戚の家を真似たという商家づくりのこの家は、材木の切り出しから乾燥そして建築と、完成までに4年以上の歳月をかけてつくられています。よい材料を吟味し、周到に準備を重ねて、丁寧につくりあげられた家だからこそ、100年以上経たいまでも、しっかりとそこに住む人の暮らしを支えています。
敷地内には、類焼をまぬがれ、現在で築150年となる蔵もあります。

外山書店

幕末の煙草問屋の記憶

幕末に煙草問屋として創業。屋号の“柏善”は、初代の柏谷善兵衛の名から取ったものです。専売制実施後は、煙草元売捌所となり、その後専売公社の支所のひとつとなりました。
戦後に貸本業を始め、一時閉店しましたが、昭和57年から一般書店となっています。
大正時代に母屋および店舗の一部に改修を行いましたが、建物自体は創業当時の姿で残っています。

門井歯科

大工の棟梁の望みをかなえた洋館

昭和初期に建てられた2階建の洋館です。歯科医師であった当主（現当主の父）は日本式家屋を希望しましたが、出入職の大工の棟梁のたっての頼みで、洋館となったのだそうです。
とくに外壁は磨き出しモルタルで、大変手間のかかる仕上げとなっています。
内部の治療室の天井は、丸みのついた変わったつくりになっていますが、これは、クモの巣を防ぐための工夫といわれています。

大宝八幡宮本殿

桃山時代初期の貴重な文化財

大宝元年（701年）に藤原時忠公が筑紫の宇佐神宮を勧請創建したのがはじまりで、本殿は天正5年（1577年）、下妻城主多賀谷尊経（重経）が再建しました。当時の棟札墨書銘と擬宝珠刻銘も現存しています。
建物は三間社流造で、立ち上がりが高く柱も太くてどっしりと重みがありますが、組物は小柄で複雑に組み合わされ、桃山時代の地方色が濃く表れています。屋根は茅葺でしたが、昭和40年に茅葺形銅版葺に改められました。天正期の貴重な資料として国の重要文化財に指定されています。

所在地：下妻市大宝667
問合せ：TEL.0296-44-3756

常陸国と下総国のむかしの家 [体感ルート] 鬼怒川水系編

タイムテーブル

- この冊子でご紹介している「むかしの家々」を1日で巡るタイムテーブル案です。
- 発着地には、筑西市役所を設定しました。北関東自動車道の桜川筑西ICからおよそ11.5キロ、車で25分のところにあります。また、各時間を算出する際の移動手段は普通乗用車を前提としています。 ＊大型車・大人数の場合は、所要時間が増すことが予想されます。
- 1日で巡るルートとしては、目的地がやや多めの設定になっています。より余裕を持った見学をご希望の方は、この案をもとに日程や見学地の数などをご調整ください。
- 古河市については、広範囲にわたるため、このルートでは古河駅西口・古河城跡周辺のみを巡る設定としています。
- 冬季に巡る際はなるべく早めにスタートしましょう。 ＊日の入りが早く、17時には暗くなりますよ。

	見学地	見学時間	移動時間（距離）	時刻（ご参考）
	筑西市役所			9：00 出発
		↓	10分（0.9km）	徒歩で移動
	下館 まちなみ散策 板谷波山記念館 荒為／時の蔵 ほか	80分		9：10〜10：30
		↓	30分（11.5km）	車で移動
	結城 まちなみ散策 奥順・つむぎの館 あくとの里 ほか	120分	昼食時間含む	11：00〜13：00
		↓	50分（25.5km）	車で移動
	古河 まちなみ散策 鷹見泉石記念館 奥原晴湖熊谷画室 篆刻美術館 永井路子旧宅 ほか	90分		13：50〜15：20
		↓	50分（25.0km）	車で移動
	下妻 まちなみ散策 あかり家 沼尻家（六芳園） かしわや薬局 ほか	40分		16：10〜16：50
		↓	40分（18.0km）	車で移動
	筑西市役所			17：30 終了

合計：約8時間30分（見学時間：約5時間30分／移動時間：約3時間）

社団法人茨城県建築士会について

社団法人茨城県建築士会は、茨城県内に居住または勤務する建築士を中心に構成されている組織です。会員同士が協力し合い、建築士の業務の進歩改善と建築士の品位の保持、向上を図り、建築文化の進展に資することを目的に、社会に対する活動と会員相互の交流活動を行っています。

組織の中には、会としての目的達成と事業活動の効率化のために委員会が設置されています。わたしたち「まちづくり委員会」では、一般の方を交えてのワークショップ、シンポジウムを実施するなどして、住みよいまちづくりに寄与する活動を行っています。

＊本会は茨城県より景観法に基づく「景観整備機構」の指定を受けています。

常陸国と下総国のむかしの家

ひたちのくに　しもうさのくに

[体感ルート・ガイドマップ] 鬼怒川水系編

発行　社団法人 茨城県建築士会
会長　柴 和伸
〒310-0852
茨城県水戸市笠原町978-30
建築会館2階
TEL.029-305-0329
http://homepage1.nifty.com/ishikai/

協賛　財団法人 茨城県建築センター

編集　茨城県建築士会 まちづくり委員会
武村 実／石坂 健一／大高 昇／小谷野 栄次
小林 澄夫／梶 ひろみ／杉田 次夫／島田 哲
江面 松男／中崎 妙子／篠根 玲子／岩永
至功／李 相鉄／佐藤 昌樹／津田 むつみ

協力　下館・時の会／鈴木 康博（茨城県建築士会筑西支部）／歴史と文化のまち古河観光ボランタリーガイド協会／加藤 誠洋（茨城県建築士会古河さしま支部）／軽部 守彦（茨城県建築士会下妻支部）
坂入 雅樹 ＊敬称略

デザイン　有限会社 平井情報デザイン室

初版発行　平成23年5月20日

＊この冊子に掲載した情報は平成23年2月末現在のものです。

下館地区（旧下館市／現筑西市）の観光に関するお問合せ

筑西市役所 商工観光課　TEL.0296-20-1160

〒308-0031 茨城県筑西市丙360

下館地区（旧下館市／現筑西市）の文化財に関するお問合せ

筑西市教育委員会 生涯学習課文化グループ　TEL.0296-22-0183

〒308-0031 茨城県筑西市丙360

結城市の観光に関するお問合せ

結城市役所 商工観光課　TEL.0296-34-0421

〒307-8501 茨城県結城市大字結城1447

結城市の商店に関するお問合せ

結城商工会議所　TEL.0296-33-3118

〒307-0001 茨城県結城市大字結城531

古河市の観光に関するお問合せ

古河市役所 観光振興課　TEL.0280-92-3111

〒306-0291 茨城県古河市下大野2248

古河市の文化財に関するお問合せ

古河市役所 文化課　TEL.0280-22-5111（内線2215）

〒306-8601 茨城県古河市長谷町38-18

下妻市の観光に関するお問合せ

下妻市役所 商工観光課　TEL.0296-43-2111

〒304-8501 茨城県下妻市本城町2-22

下妻市の商店に関するお問合せ

下妻市商工会　TEL.0296-43-3412

〒304-0056 茨城県下妻市長塚74-1

発行：社団法人 茨城県建築士会　｜　協賛：財団法人 茨城県建築センター